

事業所間総合オンラインシステム

最近、HITAC Mシリーズの情報処理分野での活躍は目覚ましいものがある。特に、業務の多様化に対応した事業所間総合オンラインシステム、これをサポートするオンラインデータベース、ネットワークシステム、これにマッチした新形端末の採用などが際立った特色であり、信越化学工業株式会社に納入された本社一工場HITAC M-160 IIシステムは、その代表的な一例である。

信越化学工業株式会社は、塩化ビニル、シリコン、半導体シリコン、肥料、金属、有機化学品などを製造している総合化学メーカーで、中でもシリコン、半導体シリコン、塩化ビニルの生産は国内でトップを占める。同社は、既にこれら製品の工程制御のため、日立製プロセスコンピュータを導入しているが、更に総合情報管理システム化を進めるため、HITAC M-160 II（本社）、HITAC 8250（磯部工場）のシステムを導入し、昭和52年1月から本稼働した。

本システム納入の経緯は、まず同社の業務のEDP化将来構想の実現を目指す日立製作所との共同検討会が発足し、現システムの調査、分析、及びそれらに対する改善案をまとめた結果、増大する情報量に対して、迅速かつ効率的な処理を可能とすることと、従来のIBMシステムからの移行が保証できることなどを前提条件として、EDPSの拡充強化とRJE(Remote Job Entry)業務処理の強化ができ、かつコストパフォーマンスの高いことが評価され、HITAC Mシリーズの納入となったものである。

システム運用の形態としては、本社にHITAC M-160 II工場にHITAC 8250を設置し、処理は分散、メインファイルは集中という分散化ネットワークシステムであり、ホストコンピュータの負荷の低減と、サテライトコンピュータの独立処理を経済的に構築し、システム資源は中央で一括管理することにポイントをおいている。

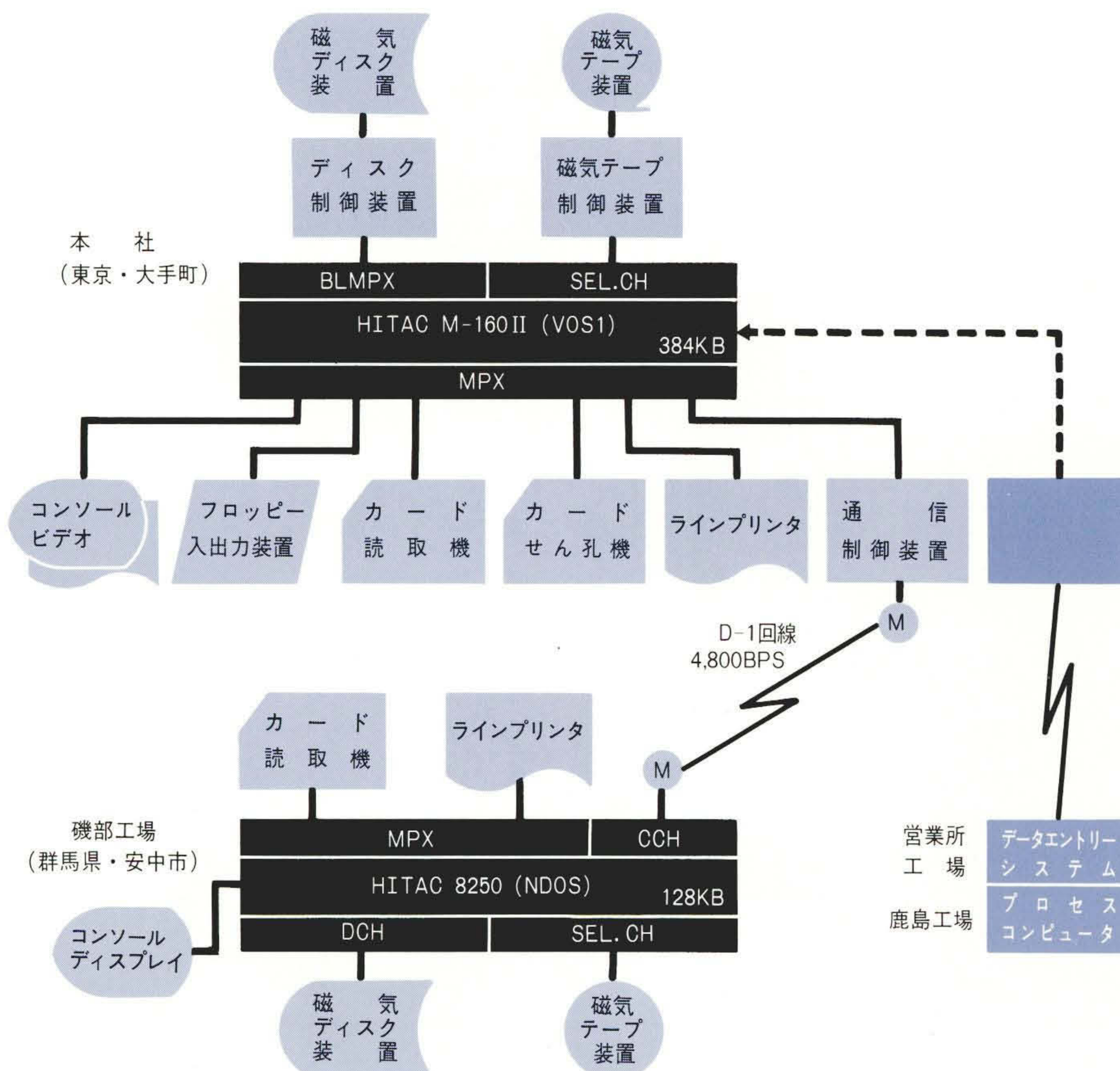


ソフトウェアに使用のVOS1(Virtual-storage Operating System1)はリモートバッチ処理、リアルタイム処理、ローカルバッチ処理の同時混在処理ができるので、完全な2本のマルチプランが可能で、資源の効率的配分を図ったシステムの運用が行なわれており、またネットワークシステムが確立して端末側で処理できない業務も可能となった。

このように、新システムは、システ

ム全体の信頼性を向上し、コストの低減を可能にし、更に処理能力を倍加して、情報量の増大に対応しつつ処理の迅速化に効果を上げている。

信越化学工業株式会社は、本システムにより(1)工場の生産管理、(2)経理・営業・計画業務、(3)事務管理業務、(4)関連数十社の総合管理などの拡充強化及び経営情報の迅速化を推進しつつ、更に総合情報管理システムの充実を目指している。



信越化学工業株式会社HITACシステムハードウェア構成図